

少子化対策に関する検討状況について

福山市子ども企画課

目次

1 人口減少・少子化の概況

2 2023年度の福山市の主な少子化対策(出会い・結婚から子育てまでの支援策)

3 ライフステージごとの現状と少子化に対する施策の方向性

別冊 (参考資料) ライフステージごとの現状

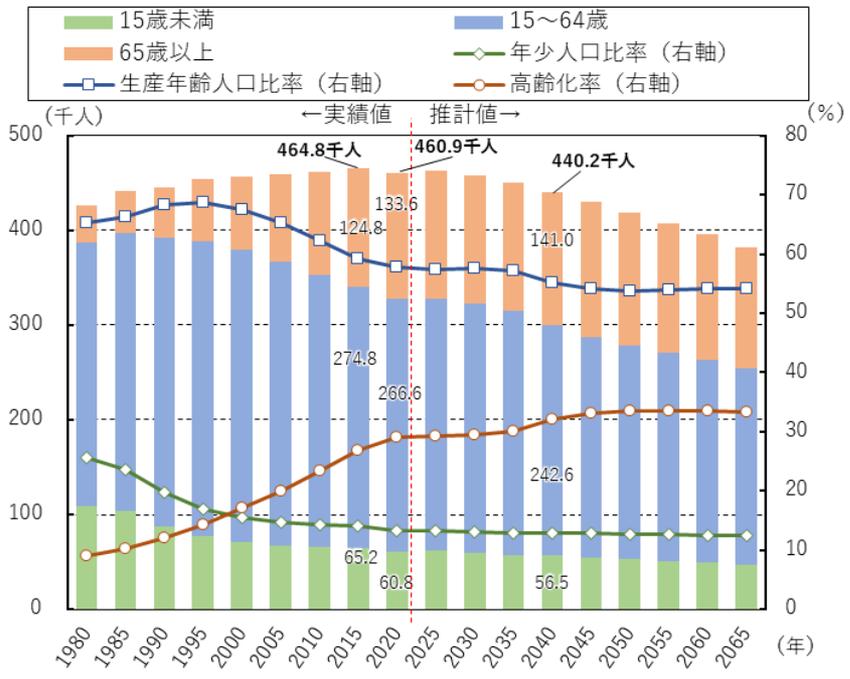
1 人口減少・少子化の概況

1 人口減少・少子化の概況

【福山市の人口減少の状況】

- 本市の人口は、2020年(令和2年)の国勢調査で460,930人であり、1940年(昭和15年)以来の減少となった。
- 住民基本台帳における人口は、2023年(令和5年)2月末で46万人を割り込む状況となっている。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、2040年(令和22年)には44万人まで減少すると予測されており、年齢3区分別の推計を見ると、年少人口(15歳未満)・生産年齢人口(15～64歳)は減少を続けることとなっている。
- 本市の出生数は直近5か年で約600人減少するなど、年々出生数が減少している。

【福山市の将来人口推計グラフ (年齢3区分別) (外国人を含む)】



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30(2018)年推計)
 ※2020年までは国勢調査の実績値(年齢3区分人口は年齢不詳を按分した数値)、2025年以降は推計値



1 人口減少・少子化の概況

- 出生数の減少により、0～4歳の人口が約3,100人減少している。
- 年齢区分別の5年間の変動では、高齢者を除き、「15歳～19歳」から「20歳～24歳」になる区分と、「20歳～24歳」から「25歳～29歳」になる区分で大きく減少している。
- これらの年齢区分では、特に女性の「15歳～19歳」から「20歳～24歳」になる区分で減少が大きい。

住民基本台帳登録人数（日本人）

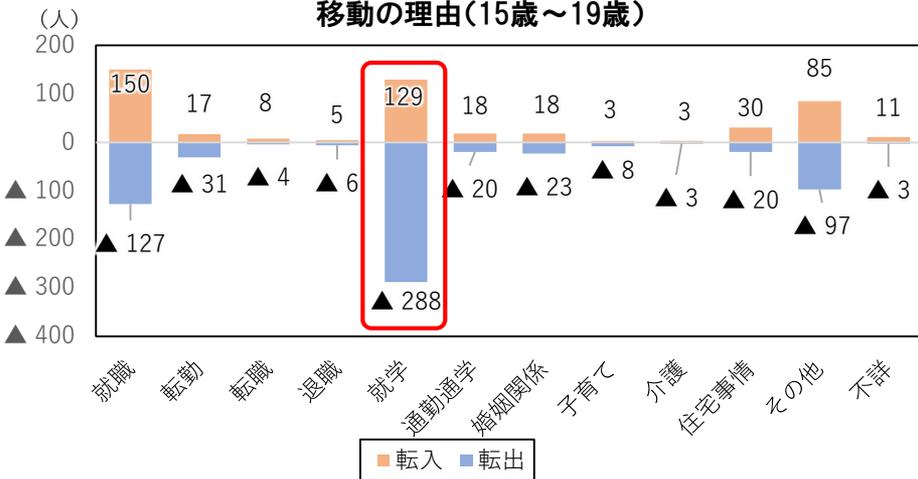
| 年齢区分 | 男女計 | | | | 年齢区分 | 男 | | | | 年齢区分 | 女 | | | |
|---------|---------|---------|-----------|----------|---------|---------|---------|-----------|----------|---------|---------|---------|-----------|----------|
| | 2017 | 2022 | 2017→2022 | 5年間での変動数 | | 2017 | 2022 | 2017→2022 | 5年間での変動数 | | 2017 | 2022 | 2017→2022 | 5年間での変動数 |
| 0～4 | 20,362 | 17,246 | ▲ 3,116 | | 0～4 | 10,407 | 8,986 | ▲ 1,421 | | 0～4 | 9,955 | 8,260 | ▲ 1,695 | |
| 5～9 | 21,785 | 20,143 | ▲ 1,642 | ▲ 219 | 5～9 | 11,090 | 10,321 | ▲ 769 | ▲ 86 | 5～9 | 10,695 | 9,822 | ▲ 873 | ▲ 133 |
| 10～14 | 21,668 | 21,618 | ▲ 50 | ▲ 167 | 10～14 | 11,150 | 10,959 | ▲ 191 | ▲ 131 | 10～14 | 10,518 | 10,659 | 141 | ▲ 36 |
| 15～19 | 22,688 | 21,424 | ▲ 1,264 | ▲ 244 | 15～19 | 11,566 | 11,082 | ▲ 484 | ▲ 68 | 15～19 | 11,122 | 10,342 | ▲ 780 | ▲ 176 |
| 20～24 | 21,812 | 21,420 | ▲ 392 | ▲ 1,268 | 20～24 | 11,370 | 11,210 | ▲ 160 | ▲ 356 | 20～24 | 10,442 | 10,210 | ▲ 232 | ▲ 912 |
| 25～29 | 22,193 | 20,967 | ▲ 1,226 | ▲ 845 | 25～29 | 11,602 | 11,009 | ▲ 593 | ▲ 361 | 25～29 | 10,591 | 9,958 | ▲ 633 | ▲ 484 |
| 30～34 | 25,676 | 22,110 | ▲ 3,566 | ▲ 83 | 30～34 | 13,230 | 11,509 | ▲ 1,721 | ▲ 93 | 30～34 | 12,446 | 10,601 | ▲ 1,845 | 10 |
| 35～39 | 28,158 | 25,636 | ▲ 2,522 | ▲ 40 | 35～39 | 14,400 | 13,181 | ▲ 1,219 | ▲ 49 | 35～39 | 13,758 | 12,455 | ▲ 1,303 | 9 |
| 40～44 | 34,848 | 28,209 | ▲ 6,639 | 51 | 40～44 | 17,804 | 14,470 | ▲ 3,334 | 70 | 40～44 | 17,044 | 13,739 | ▲ 3,305 | ▲ 19 |
| 45～49 | 32,896 | 34,682 | 1,786 | ▲ 166 | 45～49 | 16,463 | 17,695 | 1,232 | ▲ 109 | 45～49 | 16,433 | 16,987 | 554 | ▲ 57 |
| 50～54 | 26,760 | 32,455 | 5,695 | ▲ 441 | 50～54 | 13,129 | 16,140 | 3,011 | ▲ 323 | 50～54 | 13,631 | 16,315 | 2,684 | ▲ 118 |
| 55～59 | 26,292 | 26,393 | 101 | ▲ 367 | 55～59 | 12,919 | 12,925 | 6 | ▲ 204 | 55～59 | 13,373 | 13,468 | 95 | ▲ 163 |
| 60～64 | 28,632 | 25,749 | ▲ 2,883 | ▲ 543 | 60～64 | 13,987 | 12,541 | ▲ 1,446 | ▲ 378 | 60～64 | 14,645 | 13,208 | ▲ 1,437 | ▲ 165 |
| 65～69 | 36,786 | 27,787 | ▲ 8,999 | ▲ 845 | 65～69 | 17,801 | 13,393 | ▲ 4,408 | ▲ 594 | 65～69 | 18,985 | 14,394 | ▲ 4,591 | ▲ 251 |
| 70～74 | 29,158 | 34,981 | 5,823 | ▲ 1,805 | 70～74 | 13,707 | 16,559 | 2,852 | ▲ 1,242 | 70～74 | 15,451 | 18,422 | 2,971 | ▲ 563 |
| 75～79 | 24,362 | 26,557 | 2,195 | ▲ 2,601 | 75～79 | 10,928 | 11,960 | 1,032 | ▲ 1,747 | 75～79 | 13,434 | 14,597 | 1,163 | ▲ 854 |
| 80～84 | 18,219 | 21,013 | 2,794 | ▲ 3,349 | 80～84 | 7,286 | 8,827 | 1,541 | ▲ 2,101 | 80～84 | 10,933 | 12,186 | 1,253 | ▲ 1,248 |
| 85～89 | 12,026 | 13,846 | 1,820 | ▲ 4,373 | 85～89 | 4,117 | 4,958 | 841 | ▲ 2,328 | 85～89 | 7,909 | 8,888 | 979 | ▲ 2,045 |
| 90～94 | 5,861 | 7,075 | 1,214 | ▲ 4,951 | 90～94 | 1,485 | 1,980 | 495 | ▲ 2,137 | 90～94 | 4,376 | 5,095 | 719 | ▲ 2,814 |
| 95～99 | 1,702 | 2,265 | 563 | ▲ 3,596 | 95～99 | 305 | 429 | 124 | ▲ 1,056 | 95～99 | 1,397 | 1,836 | 439 | ▲ 2,540 |
| 100～104 | 275 | 365 | 90 | ▲ 1,337 | 100～104 | 34 | 38 | 4 | ▲ 267 | 100～104 | 241 | 327 | 86 | ▲ 1,070 |
| 合計 | 462,159 | 451,941 | ▲ 10,218 | | 合計 | 224,780 | 220,172 | ▲ 4,608 | | 合計 | 237,379 | 231,769 | ▲ 5,610 | |

(2017年は9月末時点、2022年は8月末時点)

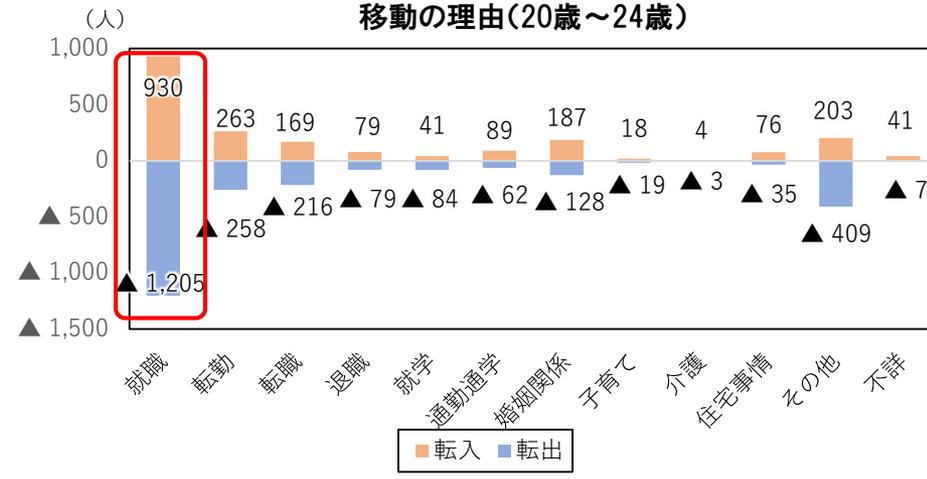
1 人口減少・少子化の概況

- ・転出入の理由を年代別に見ると、15歳～19歳は就学、20～24歳は就職による転出超過が大きくなっている。

移動の理由(15歳～19歳)



移動の理由(20歳～24歳)



資料：広島県「人口移動統計」（2022年1月～2022年12月）から作成

※広島県「人口移動統計」の月報を福山市で集約したもの。理由別移動者数は任意調査のため、総務省「住民基本台帳移動報告」に基づく福山市の転入数・転出数（日本人のみ/2022年）に合致するよう補正を行い理由別移動者数を推計した。

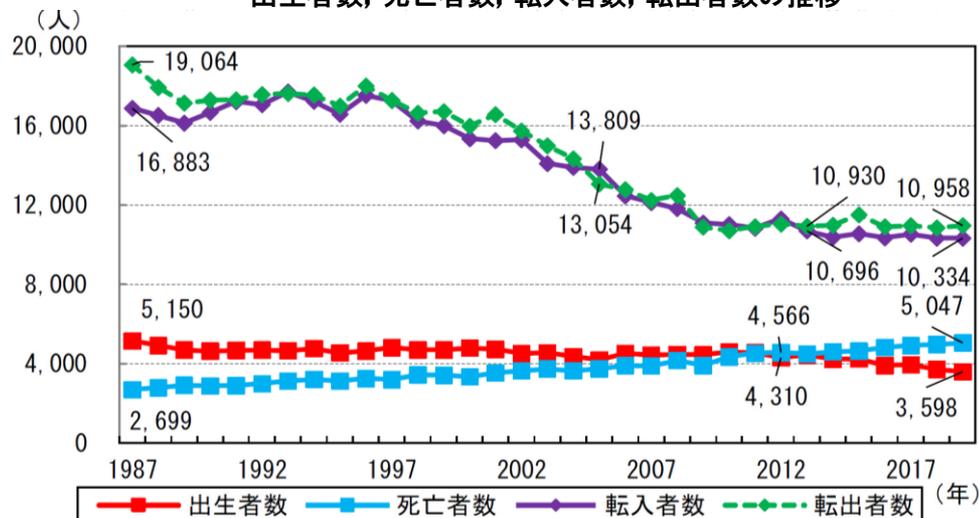
- ・2012年以降は死亡者数が出生者数を上回る
自然減が続き、加えて、2013年以降は転出者数が転入者数を上回る
社会減が続いている。

- ・このまま、人口減少が進むことで、公共交通の利用者が減少し、維持・確保が厳しくなるなど、生活利便性が低下することが考えられる。

- ・また、地域の担い手が減り、コミュニティの維持が困難になることも考えられる

- ・このため、自然減を抑制する少子化対策、社会減を抑制する若者の定着促進が必要である。

出生者数, 死亡者数, 転入者数, 転出者数の推移



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯」

2 2023年度の福山市の主な少子化対策(出会い・結婚から子育てまでの支援策)

2 2023年度の福山市の主な少子化対策(出会い・結婚から子育てまでの支援策)



福山市ネウボラ事業計画（2020年度～2024年度）に基づき支援

＋【5つのニーズに対する施策を強化（2023年度～）】

- 出産・子育てにかかる費用の軽減
- 保育サービスの充実と医療提供体制の確保
- 子どもと楽しめる場所等の創出
- 仕事と子育ての両立支援
- 気軽に相談できる環境づくり

○福山ネウボラ相談窓口「あのね」（市内13か所に設置，母子健康手帳の交付）

○子ども医療費助成（対象：中学生まで，10月～所得制限撤廃）

妊娠・出産支援

- 不妊・不育症治療費助成事業
- 低所得の妊婦に対する
初回産科受診料支援事業
- 産前面談
- 夢みるパパとママの会
- 風しん抗体検査
- こんには赤ちゃん訪問事業
- 妊婦・産婦健康診査
- 産前・産後サポート事業
- 産後ケア
- 家事支援家庭訪問事業
- 出産・子育て応援金
- 子育て応援プレゼント事業

保育サービスの充実

【保育サービス】

- 一時預かり事業
- 待機児童対策
- 休日保育支援事業
- 医療的ケア児保育事業
- スマート保育（アプリでの保護者との連絡等）

【保育人材確保】

- 保育補助者雇上強化事業
- 保育士資格取得支援事業
- 保育士等復職支援事業

学校教育環境の整備

- 市立小中学校の図書館整備・耐震化
- 小中一貫教育推進事業
- 不登校児童生徒への取組（フリースクール等）
- 放課後チャレンジ教室

一体的なモデル事業実施

地域の子育て支援サービスの充実

- ふくやま子育て応援センター「キッズコム」
- えほんの国
- 地域子育て支援拠点事業

- 放課後児童クラブ（5か所の開設時間延長）
- 放課後こども教室
- インクルーシブ遊具整備

その他保育サービス

- ショートステイ・トワイライトステイ
- ファミリー・サポート・センター事業
- 病児・病後児保育事業（施設型・訪問型）

（参考）

- こいのわ出会いサポートセンター（広島県）
- ・イベント・セミナー開催
- ・相談支援
- ・企業や団体との連携
- ・動画などでの情報発信

医療提供体制の確保

- 初期臨床研修医・専攻医研修支援
- 小児救急・周産期医療体制の構築（岡山大学との連携）
- 医療版ワーケーションによる小児科医確保
- 福山市民病院による小児救急24時間365日対応

仕事と家庭の両立

- 子育てパパ活躍ウィーク（11/3～11/23）
- 男性育児休業取得促進事業
- ふくやまワークライフバランス認定
- 女性の就業環境改善

援助が必要な家庭への支援

- 子ども家庭総合支援拠点
- 子ども発達支援センター
- ことばの相談室
- 子育て世帯向け市営住宅の改修・供給
- ひとり親家庭自立支援事業
- 障がい児療育支援事業
- 奨学金の貸与
- 就学援助費（入学準備費等）

3 ライフステージごとの現状と少子化に対する施策の方向性

出会い・結婚

妊娠・出産

子育て 就学前 → 就学後

未婚化・晩婚化の解消に向けた 出会い・結婚支援策の充実

希望の子ども数をかなえるための 子育て支援策の強化

出会いと結婚をサポートする体制づくり

(現状)

- 結婚に前向きだが、適当な人にめぐり合えていない
- 職場や友人を通じた出会いは減少。ネットでの出会いは増加
- 職場や学校などの対面での出会いを希望
- 結婚相手の条件には人柄や家事・育児の能力や姿勢などを重視

社会全体で結婚を応援する支援の充実

(現状)

- 女性の結婚したくない理由は「家事・育児等を背負うことになるから」
- 男女ともに残業が多いことによる結婚後の家事への不安を抱えており、働き方改革の推進が必要
- 結婚後に発生する費用や家事・育児など、将来が不安

結婚等の障壁となる経済的負担の軽減

(現状)

- 結婚にあたって、経済的不安を抱えている人は多い
- 奨学金の返済など経済的負担で結婚・出産等ができない

夫婦が協力し合い安心して妊娠・出産できる社会・職場環境づくり

(現状)

- 不妊治療と仕事の両立に向けた職場づくりが進んでいない

妊娠から出産までにかかる身体的・経済的負担の軽減

(現状)

- 不妊治療が受けにくい理由は「治療費の負担が大きいから」
- 出産費用の助成や妊婦健診無料化を求める人が多い

安心・安全な医療提供体制の確保

(現状)

- 分娩取扱医師や小児科医師などが少ない
- 分娩取扱医療機関も減少

人材不足解消にもつながる子育てにやさしい職場づくりの推進

(現状)

- 育児と仕事の両立が難しく、第1子出産後に退職する女性は多い
- 妊娠・出産の希望はあるが、仕事などに影響が出ることに不安

就学前児童等にかかる経済的負担の軽減

(現状)

- 保育費用・教育費・医療費の負担軽減を求める人が多い
- 子育てにおいて教育費用の割合は高い。奨学金の返済には長い期間を要する
- 子どもの人数に合わせて経済的負担が大きくなる

夫婦間の家事・育児の分担推進と家事の負担軽減

(現状)

- 父親の家事・育児時間は、母親と比べて極端に短い。育児休業を取得している人も少ない
- 育休取得がしやすい職場環境づくりなどが必要
- 家事・育児は母親という考えを持っている人がいる

子育て中の親に対する支援の充実

(現状)

- 子育てに休みがなく、自分の時間もない

子育て世帯の見守り・支え合いの推進

(現状)

- 祖父母との同居・近居が子育てや仕事のしやすさに大きく影響
- 祖父母や近所の人の協力が得られる地域・環境が必要

親子の遊び・学び等の推進

(現状)

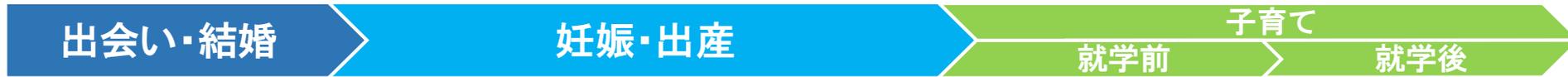
- 子どもを持ちたい理由は「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」
- 室内で広い子どもの遊び場が必要

多様な保育・教育ニーズに対する子育てサービスの提供

(現状)

- 保育士確保や学童の送迎時間延長などが必要

(参考)少子化に対する施策の方向性(福山ネウボラ5つのニーズとの関係性)



出会いと結婚をサポートする体制づくり
(現状)
○結婚に前向きだが、適当な人にめぐり合えていない
○職場や友人を通じた出会いは減少。ネットでの出会いは増加
○職場や学校などの対面での出会いを希望
○結婚相手の条件には人柄や家事・育児の能力や姿勢などを重視

社会全体で結婚を応援する支援の充実
(現状)
○女性の結婚したくない理由は「家事・育児等を背負うことになるから」
○男女ともに残業が多いことによる結婚後の家事への不安を抱えており、働き方改革の推進が必要
○結婚後に発生する費用や家事・育児など、将来が不安

結婚等の障壁となる経済的負担の軽減
(現状)
○結婚にあたって、経済的不安を抱えている人は多い
○奨学金の返済など経済的負担で結婚・出産等ができない

●出産・子育てにかかる費用の軽減

妊娠から出産までにかかる身体的・経済的負担の軽減
(現状)
○不妊治療が受けにくい理由は「治療費の負担が大きいから」
○出産費用の助成や妊婦健診無料化を求める人が多い

就学前児童等にかかる経済的負担の軽減
(現状)
○保育費用・教育費・医療費の負担軽減を求める人が多い
○子育てにおいて教育費用の割合は高い。奨学金の返済には長い期間を要する
○子どもの人数に合わせて経済的負担が大きくなる

子育て中の親に対する支援の充実
(現状)
○子育てに休みがなく、自分の時間もない

●保育サービスの充実と医療提供体制の確保

安心・安全な医療提供体制の確保
(現状)
○分娩取扱医師や小児科医師などが少ない
○分娩取扱医療機関も減少

多様な保育・教育ニーズに対する子育てサービスの提供
(現状)
○保育士確保や学童の送迎時間延長などが必要

●仕事と子育ての両立支援

夫婦間の家事・育児の分担推進と家事の負担軽減
(現状)
○父親の家事・育児時間は、母親と比べて極端に短い。育児休業を取得している人も少ない
○育休取得がしやすい職場環境づくりなどが必要
○家事・育児は母親という考えを持っている人がいる

夫婦が協力し合い安心して妊娠・出産できる社会・職場環境づくり
(現状)
○不妊治療と仕事の両立に向けた職場づくりが進んでいない

人材不足解消にもつながる子育てにやさしい職場づくりの推進
(現状)
○育児と仕事の両立が難しく、第1子出産後に退職する女性は多い
○妊娠・出産の希望はあるが、仕事などに影響が出ることに不安

●気軽に相談できる環境づくり

子育て世帯の見守り・支え合いの推進
(現状)
○祖父母との同居・近居が子育てや仕事のしやすさに大きく影響
○祖父母や近所の人との協力が得られる地域・環境が必要

●子どもと楽しめる場所等の創出

親子の遊び・学び等の推進
(現状)
○子どもを持ちたい理由は「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」
○室内で広い子どもの遊び場が必要